

## うめきた2期で防災公園街区整備事業を推進しています

### ～「(仮称)うめきた公園」の工事に本格着手～

独立行政法人都市再生機構(以下、「UR都市機構」)は、うめきた2期のまちづくりに  
おいて大阪市からの要請に基づき実施している「(仮称)うめきた公園(以下、「本公園」)」  
における防災公園街区整備事業の工事に本格着手しますのでお知らせします。

本公園では、大阪府・大阪市、UR都市機構、三菱地所株式会社を代表企業とするうめき  
た2期開発事業者JV9社<sup>\*1</sup>(以下、「事業者JV」)が連携し、公共によるベースグレードの  
公園整備に加え、事業者JVのデザイン提案等によるまち全体の魅力を高めるアップグ  
レードを行います。



現在、土地区画整理事業等の基盤整備事業や、民間開発工事が行われており、今般着  
手するのは、うめきた2期の「みどり」の中心に位置する約4.5haの公園工事です。

2025年大阪・関西万博開催に先立つ2024年夏頃の先行開園、2027年春頃の全体開園  
を目指し、公園整備に取り組んでいきます。

\*1 三菱地所株式会社、大阪ガス都市開発株式会社、オリックス不動産株式会社、関電不動産開  
発株式会社、積水ハウス株式会社、株式会社竹中工務店、阪急電鉄株式会社、三菱地所レジ  
デンス株式会社、うめきた開発特定目的会社

<本件に関するお問い合わせ先>

UR都市機構 西日本支社 総務部 総務課(広報担当) TEL: 06-6969-9008

## ■うめきた2期のまちづくりについて

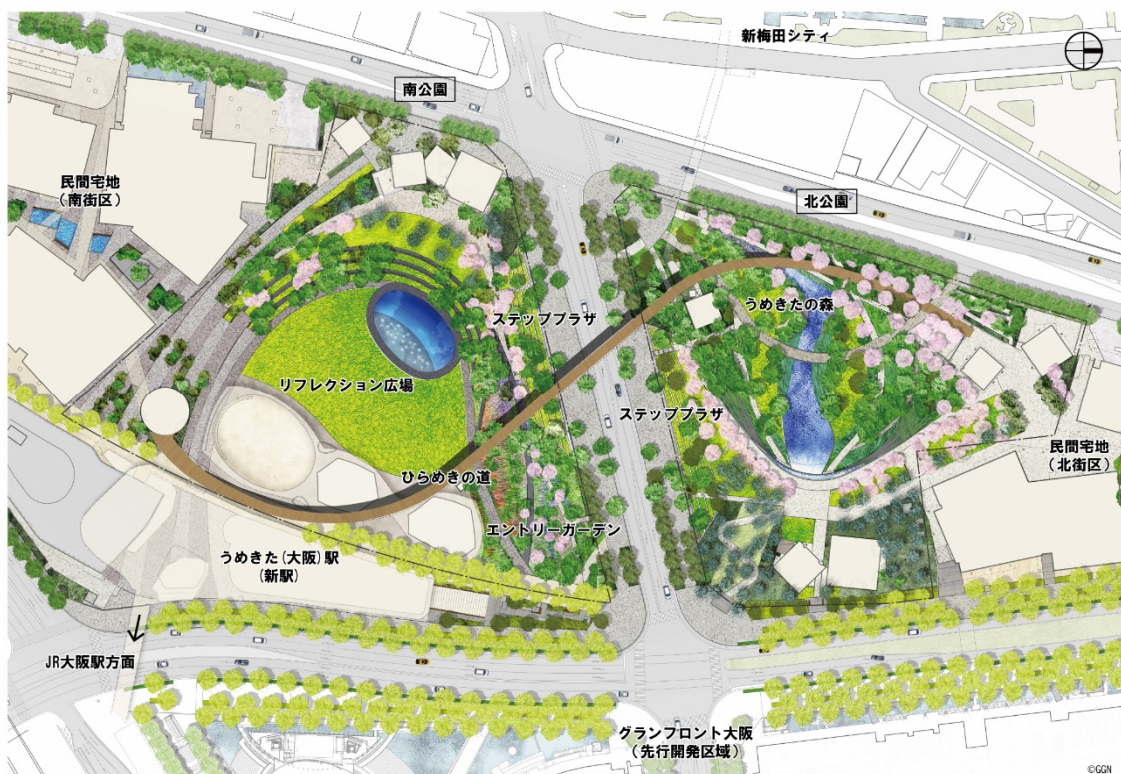
西日本最大の鉄道ターミナル駅前に立地し、関西広域からの高いアクセス性を有するうめきた2期では、都心部におけるこれまでにない魅力をもった大規模な「みどり」の空間の創出や、ライフデザイン・イノベーションをテーマとした新産業の創出拠点の形成などにより、『みどり』と『イノベーション』の融合拠点の実現を目指しています。

## ■本公園の特徴

- 『未来へのひらめきと原動力となる「みどり」』をコンセプトに、民間宅地を含めた敷地全体を一つの「みどり」の大地として捉え、一体的な設計としています。
- 南公園は都市的な空間、北公園は緑が多く自然豊かな空間とし、それぞれに水景や桜を配置することで、象徴的な風景を創出し、自然を楽しめる名所を作ります。
- 最大高さ約3mのランドフォーム（盛土）を、南北を跨いでうねるように配置し、奥行きや体感のある多様な空間・景観を創出することで、さまざまな活動・体験を生み出します。

## ■市民に愛される大阪の新しい名所となるデザイン

- 土地が持つ記憶や、大阪城の石垣等の日本の職人文化や大阪の多くの橋を架けてきた文化や水の都といった大阪らしさをデザインに落とし込んでいます。
- 植栽デザインは、大阪の在来種や日本らしさを感じられる樹木や草花を用い、四季折々の風景をつくりだすデザインとしています。



## 公園全体計画図

※本公園内の部分名称、本公園施設名称は全て仮称です



## ■南公園の空間イメージ



上質な天然芝と水盤のある「リフレクション広場」

大屋根イベントスペースとの一体利用により1万人規模のイベント開催も可能



木陰で思い思いに過ごせる段丘状の丘や、  
水遊びのできる薄層の水盤  
南公園では多様なアクティビティの展開が  
可能



四季折々の草花に囲まれながら、ゆったり  
と寛ぐことができる庭園空間「エントリー  
ガーデン」



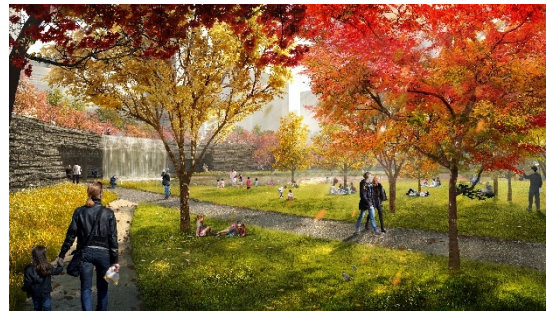
■北公園の空間イメージ



豊かな緑とダイナミックな水景（池・滝）のある憩いの空間「うめきたの森」  
滝の上部では春には桜が楽しめます



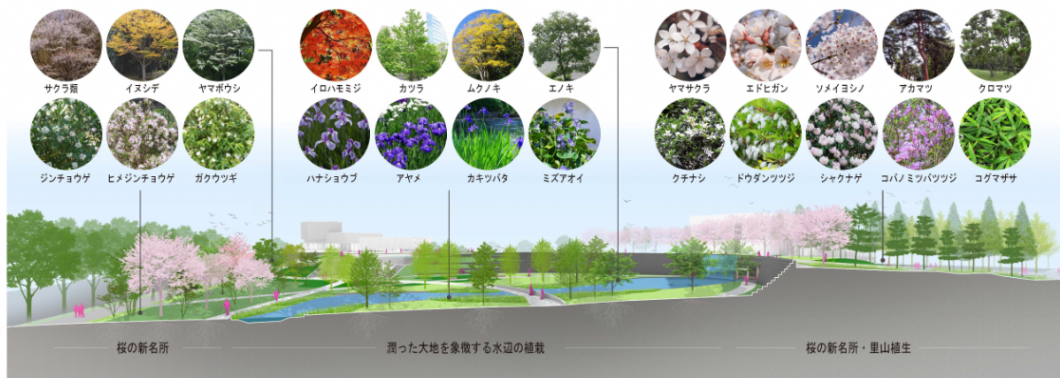
北公園南西入口部に位置する、さまざまな水の表情が楽しめる水景施設



繊細な日本の職人文化を表現した石壁と滝  
秋には紅葉が楽しめます

■植栽計画

在来種を中心としつつ、日本らしさ、大阪らしさ、うめきたらしさを感じることが出来る植栽計画としています。





## ■防災（レジリエンス強化）に関する取組

- 本公園は、「広域避難場所の機能を有する都市公園」として、大規模災害時に一時避難者の受け入れが可能な有効避難スペースを約3.4ha確保した都市公園として整備します。
- 一時避難者の滞留スペースとして活用できる平坦な広場を確保し、動線計画においても多数の一時避難者や緊急車輛の円滑な進入を考慮した入口・幅員設定を行っています。
- 非常用照明、防災スピーカー、非常用便所（災害用マンホールトイレ）、備蓄倉庫などの防災施設を配置します。

## ■経過と今後の予定

平成 27（2015）年 3 月	うめきた 2 期区域まちづくりの方針策定
平成 30（2018）年 7 月	うめきた 2 期民間開発事業者決定
令和 2（2020）年 12 月	民間開発工事着手
令和 4（2022）年 5 月	公園工事本格着手（予定）
令和 5（2023）年 春	うめきた（大阪）地下駅開業
令和 6（2024）年 夏頃	一部先行まちびらき（民間宅地の一部・本公園の一部等） ～以降、段階的なまちびらき～
令和 7（2025）年 春頃	うめきた（大阪）駅 新駅ビル全面開業
令和 8（2026）年 度末	基盤整備完了
令和 9（2027）年 春頃	本公園全体開園
令和 9（2027）年 度	全体まちびらき

## ■本公園の概要

計画地	大阪市北区大深町地内（大阪都市計画公園 5・4・32 号大深町公園）
公園名称	（仮称）うめきた公園
面積	約 4.5ha
整備	整備主体：大阪市・独立行政法人都市再生機構（以下「公共」） 整備手法：防災公園街区整備事業（一部、土地区画整理事業） 公共によるベースグレードの公園整備に加え、事業者 JV のデザイン提案等によるまち全体の魅力を高めるアップグレードを実施後、大阪市に移管予定。
設計	基本設計：株式会社日建設計・株式会社三菱地所設計 実施設計：株式会社日建設計
施工	大林組・竹中工務店・竹中土木特定建設工事共同企業体



## ■関連リンク

大阪府報道発表資料

<https://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=44421>

大阪市報道発表資料

<https://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/kensetsu/0000563806.html>

うめきた2期開発事業者報道発表資料

[https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec220516\\_umekita2park.pdf](https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec220516_umekita2park.pdf)

※本資料で使用しているパースは、2022年5月時点のイメージパースであり、今後変更となる可能性があります。（提供：うめきた2期開発事業者）

## <本件が取り組むSDGs>



## <UR 都市機構について>

UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

## <UR都市機構公式サイト>

<https://www.ur-net.go.jp/>



## <うめきた都市再生事務所 Instagram>

<https://instagram.com/umekita2ur>

